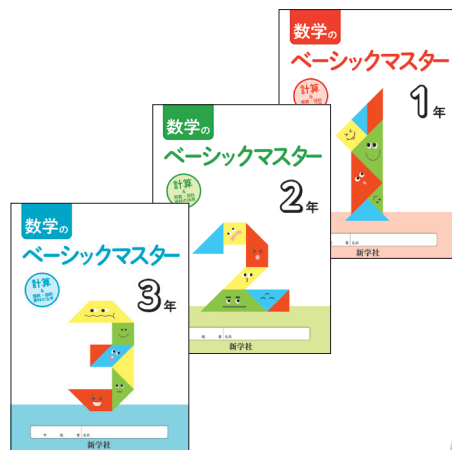


教材活用シリーズ 第 161 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

ICT化が進む今だからこそおすすめしたい、
数学の基礎基本が身につく書き込み式問題集！

(株)新学社
『数学のベーシックマスター』
(中学 1～3 年生用 標準版)



(株)新学社
クリエイティブ編集センター

1. 来歴

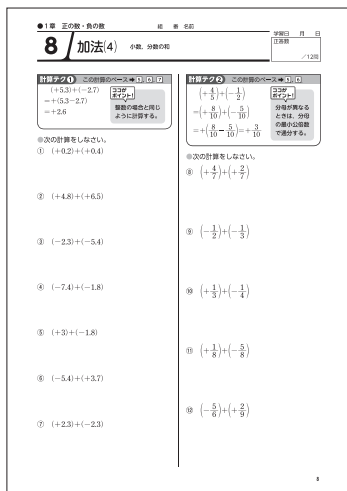
25 年以上前から発売を続けている『ベーシックマスター』。創刊当時、四国の中学校で、数式編・関数編・図形編のように、領域毎に作られた、基礎基本を定着させるための練習教材が重宝されているという情報がありました。そこで、先生方からの、「計算を中心とした基本問題がたくさん練習できる問題集がほしい」という声にお応えし、各領域で計算を必要とする問題を一冊（合本）に企画・編集した教材です。当時から問題ページは黒色 1 色。細かい単元割

で、1 回 1 ページという構成を今も守り続けています。

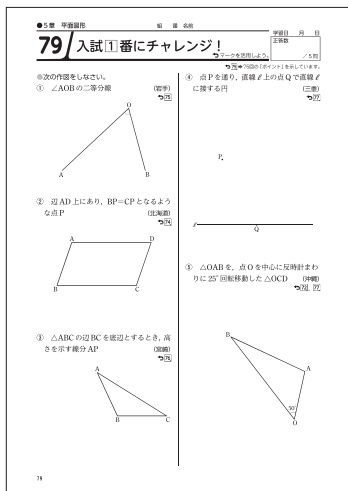
現在のユーザーを大切にしたいという思いから、大幅な企画変更等は一切行わず、教科書改訂時に新教科書対応を行う程度の改訂方針を続けていましたが、平成 27 年に全面改訂を行いました。現場の先生からの「入試の基本問題を扱ってほしい」という要望にお応えして、「入試 1 番にチャレンジ！」という特集回を設定したり、家庭学習で使いやすいように解説・解答集を 2 色にしたりする等のバージョンアップを行い、現在に至っています。

2. 内容・構成

どの学年も、数と式はもちろんのこと、関数や図形、データの活用の基本問題も取り上げており、1 年間の学習内容を網羅しています。1 回 1 ページの構成で、計算パターン毎に例題に沿って基本問題がくり返し練習できるようになっています。



▲戻って解き方が確認できるように、関連単元を示しています。



▲1 年でも出題県名を表示して入試問題を扱っています。

中単元毎に「まとめ」の回を設定し、基礎基本の定着を図ることができ、さらにご好評いただいている点として、先程

ご紹介した「入試1番にチャレンジ！」という回を各章末に設定しています。これは、1年生から設定している特集ですが、実際に出題された入試問題のなかから、その学年の内容に該当する問題を選んで掲載しています。受験を意識する3年生はもちろんのこと、1年生や2年生にも入試問題が解けるといいう経験をさせられる点をご支持いただいています。

3. なぜ今『ベーシックマスター』なのか

先日、この教材を長らくご採用くださっている先生からお手紙が届きました。そこに書かれていたのは、今の時代だからこそ、この教材を発刊し続けてほしいという、熱い思いでした。

先生は、「ICT化が進むなかで、手を動かして字を書いて問題を解いたり計算をしたりする技能が低下しているのではないか、対話的な学びが重視される一方で、すべての生徒にとって大切な基本の定着や向上を保証することが軽視されていないか」ということを憂慮されています。

そして、このような時代だからこそ、活用する力のベースとなる基本的技能を担保する副教材として、数学の基礎基本が確実に身につく『ベーシックマスター』を活用したいと書いてくださっていました。

4. 『ベーシックマスター』の活用例

この教材単体で、授業の進度に合わせてお使い

いただくというのが一般的な使い方ですが、そのほかにも先生方はさまざまに工夫して活用してくださっています。

①教科書準拠ワークと併用する。

授業毎に『ベーシックマスター』でその日の内容を復習する。



単元の終わりに、『ベーシックマスター』のまとめ回を小テストとして実施する。



定期テスト前課題として、教科書準拠ワークの範囲を指示し、回収・点検する。

※『ベーシックマスター』をドリル代わりに授業のはじめに実施し、ワークを定期



▲弊社の『数学の問題ノート』と併用いただいている学校も多いです。

テスト前課題にしている学校もあります。

先生方の声

『ベーシックマスター』は基本問題で構成されているので、数学が苦手な生徒でも取り組んでいます。」

「まとめ回の平均点は、毎回、6〜7割と高めになります。できる問題が多く、子どもたちの自信につながっています。」

②『ベーシックマスター』を2回解く。

授業の終わりに、本時の内容について、『ベーシックマスター』の該当単元の問題をノートに解く。



次の授業の初めに、全員で『ベーシックマスター』の前時の単元の問題に取り組む。

先生方の声

「この方法を1年生から3年生まで続けたところ、3年生時には、数学の基礎力テストで1や2の生徒が減り、5の生徒が増えました！」

5. おわりに

今回は、教育のICT化や主体的・対話的で深い学びに注目が集まるなか、あえて知識・技能の習得に特化した『ベーシックマスター』という教材をご紹介しました。

こういう時代だからこそ、学びの基盤となる知識・技能の育成をおろそかにしないために、長年学校現場で使用されてきた紙の教材の価値を見直してみたいかがでしようか。